

『フルスイング』

今までも何度かご紹介していますが、1月から2月にかけて、NHKが「フルスイング」という6回シリーズのドラマを放映しました。2月11日に「番組に学ぶ」と題して、取り上げましたが、もう一度、まとめるように書こうと思います。参照:<http://www.web-ami.com/mailnews/080211.html>

この番組は、6回シリーズなのですが、それぞれのポイントをNHKのホームページから抜粋しますと

★第1話のことば:「大きな耳 小さな口 優しい目」

コーチの仕事は教えん事、それがワシの信念でした。無理やり教えても、選手の迷惑じゃ。選手が苦しんで、悩んで、高さん指導して下さい言うて来るまで待つ。大きな耳、小さな口、優しい目で待つんですわ

★第2話のことば:「才能とは、逃げださないこと」

生徒に何を伝えればいいのかわからんけど、私なりにひとりひとりに向き合っていきます。何かあった時、そうだ高林がおったな、って思い出してくれればいいんじゃないかと。いつでも来やすいように、手を広げて待っててやろうと。

★第3話のことば:「大丈夫、それでいい」

(野球部中村の手のひらを見て)いい手じゃ、よう練習しとる手じゃなあ これなら大丈夫。何も変えんでいい。今まで通りでええんじゃ。この手を信じてな

★第4話のことば:「相手の目をよく見て」

キャッチボールの基本は、まず相手をよく見て、次にボールをよく見ることです。無理せんと、キャッチできる距離まで近付きましょう。ナイスキャッチ！！

★第5話のことば:「ソツ啄(ソツタク)」

「ソツ」(口へんに卒)は卵が孵る時にヒナが殻の内側から鳴く声、「啄」は母鳥が外から殻をついばむことを表します。つまり、ソツ啄とは親と子、師匠と弟子のタイミングが合う事が、理想の指導つちゅう意味です

★最後のことば:「氣力」

ワシはな、諦めん気持ちこそ、氣力じゃといたい。諦めちやいかん。ワシも、皆んなもじゃ。九回裏、ツーアウト、ランナーなしでも、何点離されておっても、諦めん気持ち、それが氣力じゃ。氣力はな、人を思う事で強くなる。思われる事で、もっと強くなる
と紹介しています。

私は、最初の「大きな耳 小さな口 優しい目」という言葉に引かれてこの番組に興味を持ったのです。全部を見た訳ではないのですが、前回は「夢」⇒「壁」⇒「人間力」⇒「支援力」⇒「関係力」⇒「真因」⇒「？」と「？」で最終回をご紹介していました。その「？」は「氣力」だったのです。

「夢」・・「イケル」という直観力が働き「夢」を膨らます

「壁」・・しかし、現実には専門性という「壁」が高く立ちはだかる

「人間力」・・その専門性という「壁」を突破する「情熱」という「人間力」

「支援力」・・受け入れられて自分の得意分野で力量を発揮する

「関係力」・・強烈な壁に「近づく」という事で「心」を開く

「真因」・・上辺のことに目を奪われずに、物事の本質を読む

「氣力」・・どんなに追い込まれても「最後まであきらめずにフルスイング」

主人公の高林先生は、毎朝、校門に立ち、登校する生徒に「未来の大リーガー」という風に、それぞれの生徒の〇〇を呼びかけていました。★「人は暗示で9割動く」と言われますが、毎日、毎日、「未来の〇〇君」と呼びかけることで、どれほど生徒の心に「夢」が入り込んだものかと思います。たしかに、「夢」が人の原動力なのかも知れません。

しかし、現実の世界では、その「夢」を通り一遍等な常識でつぶすケースが多いのです。それぞれの「人」には、環境の違いから個性が出て来るのですが、例えば、落合選手やイチローという「変則型」の選手の場合、いわゆる、プロの常識ではアウトローなのです。彼らが巨人軍のようなチームに入団しておれば、駒田選手がOB連中にいじられて大成できなかったように、それぞれのOBコーチが強い持論に圧倒されていたように思うのです。野茂投手や岡島投手も超変速フォームの選手です。それが、大リーグという舞台で「個性」を発揮したのです。この「個性」を育成するという姿勢が高島さんの主義のようです。

また、第4回では「キャッチ ミー」という言葉がテーマでした。心を閉ざした帰国子女が発するサイン「キャッチ ミー」という意味を「私を理解して」と英語教師が理解したことからドラマが急転回したのは、忘れられないものになりました。「貝」に心を閉ざした人には、やさしいトスのような「言葉」で投げかける事から、言葉のラリーが始まる事を学びました。「積極的傾聴法」という手法は、相手が話してくれて初めて有効なのです。相手が無反応になった時、それは「軽いトス」のような投げかけが重要なのだと学びました。

本当に「気づき」の多い番組でした。59才で高校教師になり、僅か1年でガンに倒れられたそうですが、彼が教えた「フルスイング」という理念は、生徒の心に深く刻みこまれたものと思います。この感動のドラマは、原作本が出版されているようです。ご興味のある方は、読まれる価値は十二分にあると確信します。

■まとめ

- ・「大きな耳 小さな口 優しい目」で個性を伸ばす
- ・「貝」になった人の心を開くのは、軽いトスから
- ・「最後まであきらめずにフルスイング」